

6 救急車の適時・適切にご利用を

救急出場件数は過去最多を更新

函館市における救急出場件数は年々増加しており、令和5年は過去最多となる19,117件を記録しました。これは、27分に1回の頻度で救急車が出場し、函館市民の13人に1人が救急車で搬送されたこととなります。

通常、119番通報を受けると現場に近い消防署から救急車が出場しますが、救急要請が重なると最寄りの救急車が出場できず、現場から離れた救急車が出場することになり、現場に到着するまでに要する時間が延伸してしまいます。

緊急性が高い傷病者のために

重篤な傷病者ほど早期に応急処置を開始し、速やかに医療機関へ搬送しなければなりません。

現場到着所要時間の延伸は救急隊による応急処置開始の遅れにつながり、傷病者の救命率に影響を及ぼすおそれがあります。

緊急性が高い傷病者のもとへ、救急車がより早く到着できるよう、救急車の適時・適切な利用をお願いします。



どうしよう？発熱時等の対応

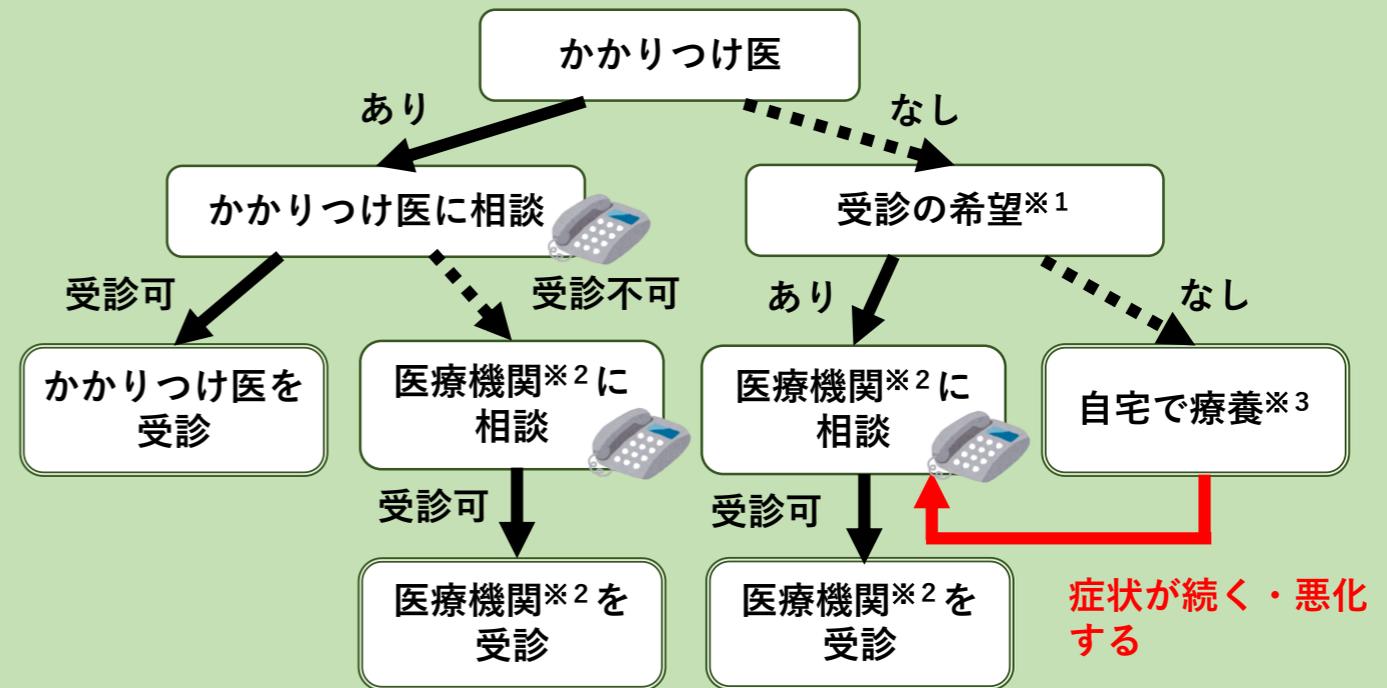
保存版

新型コロナウイルス感染症の相談窓口として開設していた受診・相談センター（0120-568-019）は、令和6年3月末で終了します。

発熱時の対応等については、本リーフレットをご参照ください。

※ 国の動向等により、終了時期が変更となる場合は、広報誌等でお知らせします。

1 発熱時等の対応



※1 「2 受診のめやす」参照

※2 内科や耳鼻咽喉科、小児科等を標ぼうしている病院・診療所

※3 「4 自宅療養のポイント」参照

こんなときにはすぐ119番を

- 突然の激しい頭痛、胸痛、腹痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 吐血
- ろれつがまわらず上手く話せない
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる
- 意識がない

救急車の不適切使用例

- 交通手段がない
- 優先的に診てもらえる
- どの病院に行けばよいか分からない
- 夜間・休日の診療時間外だった
- 救急車は無料だから

救急車を呼ぶ前に考えよう



(総務省消防庁HPから引用)

(この記事のお問い合わせ：消防本部救急課 ☎ 27-0099)

新型コロナワクチン関連の問い合わせ先について（無料接種は3月で終了）

函館市接種相談センター（☎0120-966-216）は、令和6年3月30日（土）17時をもって受付を終了します。

令和6年4月以降は右記へお電話ください。 ☎83-6001（有料）

（発行・感染症全般の相談窓口）

市立函館保健所保健予防課

〒040-0001 函館市五稜郭町23番1号 ☎ 32-1539・FAX 32-1526



■ 発熱等により医療機関を受診する場合は、事前に電話連絡をし、受診の際はマスクを着用しましょう。

■ 救急医療をみんなで守るため、軽症の場合は、日中に受診することをこころがけ、やむを得ず夜間や休日に受診する場合は、「夜間急病センター」や「休日当番医」への受診をお願いします。

2 発熱時の受診のめやす

以下のいずれかに該当する場合は、医療機関を受診しましょう。

- 生後3か月未満である
- 呼吸が苦しそう
- 意識がもうろうとしている
- けいれんを起こした
- 嘔吐が続く
- 水分がとれない



子ども

- 高齢である
- 治療中の病気がある
- 数日以上長引く発熱がある
- 息苦しさがある
- 咳・痰が増加している
- 強いだるさがある
- 意識がもうろうとしている
- 食事や水分がとれない



大人

※ 上記は「めやす」であり、上記に該当する症状がない場合の受診を否定するものではありません。

3 夜間・休日に受診する場合

小児救急～お子さんの急な症状で困ったときは～

- **北海道小児救急電話（毎日午後7時～翌朝午前8時）**
夜間の急な発熱などの対処法や受診のめやすについて看護師等が助言します。
☎ #8000 または 011-232-1599

- **目でみる救急箱**

よくある症状と応急処置の方法などをまとめたガイドブックを市HPで公開しています。



夜間・休日の受診

- **救急医療情報案内センター**

24時間体制で受診可能な医療機関を案内します。
☎ 0120-20-8699（固定電話） または 011-221-8699（携帯電話等）

- **夜間急病センター（内科・外科） ※令和6年3月31日までは小児科も**

函館市五稜郭町23番1号（総合保健センター2階） ☎ 0138-30-1199
診療時間：毎日午後7時30分から午前0時まで

- **市立函館病院 夜間こども急患室 ※令和6年4月1日診療開始**

函館市港町1丁目10番1号 ☎ 0138-43-2000
診療時間：毎日午後7時から午前0時まで（受付は午後11時30分まで）
※ 小児のケガ・やけどなどの外傷は夜間急病センターを受診してください。

4 自宅療養のポイント

- ◎ **こまめな水分補給**

発熱時には、汗をかくことなどにより、脱水状態に陥りやすくなるため、こまめに水分補給を行うよう心がけましょう。

- ◎ **栄養補給**

発熱時には、食欲が低下することがありますが、栄養不足になり、体力が消耗すると、症状の悪化や回復の遅れにつながります。食べられそうなものを選び、少量ずつでも食べるよう心がけましょう。

- ◎ **安静・休息**

発熱時は、体力が消耗しやすくなるため、安静に過ごし、普段よりも長めの睡眠時間を確保するよう心がけましょう。

- ◎ **解熱剤の使用**

発熱は身体を守るために必要な反応ですが、発熱により体力が消耗し十分な水分補給や栄養補給ができない状態になれば、症状の悪化や回復の遅れにつながります。発熱が辛い症状になる前に、解熱剤を使用することも有効です。

- ◎ **日頃からの備え**

発熱などの体調不良時・自宅療養時に備え、日頃から、薬（解熱剤やかぜ薬等）、衛生品（体温計やマスク等）、食べ物、飲み物、日用品を準備しておきましょう。

5 コロナについてのよくある質問

Q コロナにかかりましたが、外出してもよいですか？

A 外出の制限はありませんが、発症後5日間を経過し、かつ症状軽快から24時間経過するまでの間は外出を控えること、発症後10日間が経過するまでは、マスク着用やハイリスク者との接触を控えていただくことが推奨されています。

Q 家族がコロナにかかりましたが、どのような感染対策が必要ですか？

A 可能であれば部屋を分け、感染された家族の世話はできるだけ限られた方で行うことなどに注意してください。十分な換気を行い、よく触れる場所をアルコールで消毒することも有効です。食器洗いや洗濯は普段通りの対応で問題ありません。

Q 家族がコロナにかかりましたが、検査をしたほうがよいですか？

A 症状がなければ検査をする必要はありません。感染した方の発症日を0日として5日間は体調に注意してください。7日目までは発症する可能性がありますので、基本的な感染対策のほか、マスクの着用やハイリスク者との接触を控えていただく等の配慮をお願いします。